



29

表現を見つめて

走れメロス

予習のワーク

読解の道しるべ

メロスは激怒した。王が、身内ですらも、信用できないと言っては殺してしまうのだと聞いたからだ。

メロスは単純な男だったので、短剣をしのばせたまま王城に入り、警吏に調べられて、王の前に引き出される。そして、王との言い争いの末、とうとうはりつけにされることになった。

しかし、メロスには結婚を控えた妹がいる。たった一人の妹に、結婚式を挙げさせたい。メロスは王に三日間の猶予^{猶予}を与えてほしいと頼み、代わりに無二の友人セリヌンティウスに人質になってもらった。

村に帰って、妹に結婚式を挙げさせたメロスは、故郷への未練を断ち切るようにして走った。日も高くなった頃には持ち前ののんきさを取り返し、ぶらぶらと歩いていったが、前方に見えた川は、昨日の豪雨で濁流が躍り狂っている。満身の力を振り絞って川を泳ぎ切り、峠を登り切ったとき、今度は王の差し向けた山賊が躍り出た。山賊を殴り倒し、峠を駆け降りたメロスだったが、さすがに疲れ果て、照りつける太陽に、がくりと膝を折ってしまった。

天を仰いで悔し泣きに泣くメロスに、情け容赦なく、日限は迫る。果たして、メロスは約束を守り、王に信実を証明することができるのだろうか。

・話の展開に沿って、メロスや王などの登場人物の心情が変化していくことに注意しながら、読み進めていこう。

太宰治

ねらい

- ① 人物の考え方や行動について読み取ろう。
② 表現を通して主題を捉えよう。

「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

① この小説は、邪知暴虐な王に、
が存在することを証明する

ために走り続けた
の姿を描いている。

②
な男だったメロスが、苦難に遭うたびにどのように変わったのか、その人物像の変化に着目する。

1 線の読み仮名を書きなさい。

① 遊牧の民。 () ② 暴虐な君主。 ()

③ 家具を買い調える。 () ④ 警吏に捕まる。 ()

⑤ 真紅のドレス。 () ⑥ 人質が解放される。 ()

⑦ 任務を遂行する。 () ⑧ 路傍でひと休みする。 ()

⑨ 横から口を挟む。 () ⑩ 弟子入りする。 ()

⑪ 邪知深い人間。 () ⑫ 衣装を身につける。 ()

⑬ 新郎が入場する。 () ⑭ 怪しい風体の男。 ()

2

線の片仮名を漢字で書きなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------------|--------------|--------------|-------------|-------------|---------------|----------------|--------------|---------------|--------------|---------------|
| ① ハナムコが入場する。 | ② 美しいハナヨメ。 | ③ 葉にイモムシが付く。 | ④ テイシュ関白の家庭。 | ⑤ 世間をアザムク。 | ⑥ 軽くナグられた。 | ⑦ ヒレツな行いを責める。 | ⑧ シュクエンの席を設ける。 | ⑨ 勝利の喜びにヨウ。 | ⑩ カラスはカシコい鳥だ。 | ⑪ ミニクい争いをする。 | ⑫ ラタイ像を鑑賞する。 |
| ⑬ 恩に報いる。 | ⑭ 誠を尽くす。 | ⑮ 蒸し暑い夜を過ごす。 | ⑯ 万歳をして喜ぶ。 | ⑰ 賢臣として名高い。 | ⑱ 名演奏に心酔する。 | ⑲ 眉間にしわを寄せる。 | ⑳ 川が台風で氾濫する。 | ㉑ 拳を振り上げて歌う。 | ㉒ 気持ちが萎える。 | ㉓ 相手の隙を突く。 | ㉔ 再会を喜んで抱擁する。 |

3

次の各問いに答えなさい。

(1) 次の——線部の語句の意味を答えなさい。

- | | | | |
|--------------|------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| ① 彼と僕は竹馬の友だ。 | ② 会場に集まった観客がいつせいにどよめく。 | ③ みんなの前で先生にほめられ、赤面する。 | ④ 強豪といわれているチームにひるむことなく、戦いを挑んだ。 |
|--------------|------------------------|-----------------------|--------------------------------|

- | | | | | | | | | | | | |
|------------|-------------|--------------|-------------|-------------|----------|-------------|------------------|--------------|----------------|-------------|----------------|
| ⑬ 海が荒れクルう。 | ⑭ 稲をナワでしばる。 | ⑮ サンゾクに襲われる。 | ⑯ ゴウウで増水する。 | ⑰ 勇気がワいてくる。 | ⑱ 空をアオぐ。 | ⑲ ボールをケトばす。 | ⑳ アクマのささやきが聞こえる。 | ㉑ 緊張でダブルにする。 | ㉒ 親のショウダクをもらう。 | ㉓ イノチゴいをする。 | ㉔ 幸福なショウガイを送る。 |
|------------|-------------|--------------|-------------|-------------|----------|-------------|------------------|--------------|----------------|-------------|----------------|

(2) 次の——線部の語句の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

□① 不公平な判定に選手全員がいきり立つ。

ア 興奮して激しく怒る。

イ やる気を見せて、元気づく。

ウ 驚いて急に立ち上がる。

エ 論理的に反論する。

□② 僕は、無二の親友に悩みを打ち明けた。

ア わりと仲がよいこと

イ 付き合いが古いこと

ウ 並ぶものがないこと

エ 心を許していること

□③ 独り合点で物を言って、注意される。

ア 自分の立場や都合だけを考えること

イ 自分だけでわかったつもりでいること

ウ 自分一人で全ての責任をとろうとすること

エ 自分だけでやろうとして、他の人の力を借りないこと

(3) 次の——線部の語句の使い方が正しいものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

□① 精も根も尽きる

ア 危険な仕事をやり終えて、精も根も尽きる。

イ 力を貸してくれた友達に精も根も尽きるほどお礼を言った。

ウ たび重なる仕事のやり直して、資金が精も根も尽きる。

エ 名演奏をきいた観客は、心が穏やかになって精も根も尽きる。

□② ほくそ笑む

ア 親に抱かれた赤ちゃんがにっこりとほくそ笑む。

イ 恥づかしがり屋の私は、人前でほくそ笑むことが多い。

ウ 思っていたとおりに事が運んで、ひそかにほくそ笑む。

エ おもしろいテレビ番組を見て、声を出してほくそ笑む。

□③ じだんだを踏む

ア 重要点を何度も確認して、じだんだを踏む。

イ 自分たちのミスで勝利を逃して、じだんだを踏む。

ウ 音楽に合わせて、軽やかにじだんだを踏む。

エ 天気が悪いので、釣りに行くかどうかのじだんだを踏む。

(4) 次の——線部の意味をもつ二字熟語を、後の□の中の漢字を組み合わせて書きなさい。

□① 心残りを断ち切る。

□② 彼の暗記力のすばらしさに非常に驚く。

□③ 内容や価値がなく、むなしい生活を送る。

□④ 結婚式でいつまでも限りなく続く愛を誓う。

□⑤ 力を貸してほしいと同情心に訴えて頼む。

永 未 虚 哀 遠 天 練 願 仰 空

(5) 次の（ ）に入る語句を後の□の中から選び、書きなさい。

① 悪いうわさを（ ）に挟む。

② 満ち足りた思いで（ ）と日々を過ごす。

③ 有名なピアニストの名演奏をきいて（ ）だ。

④ 相手の（ ）にならないように自分の意見を言う。

思うつば 夢見心地 悠々 小耳

(6) 次の（ ）に入る語句を後の□の中から選び、書きなさい。

① 周囲を（ ）ように小さな声で話す。

② 真相がわかるまで相手を（ ）。

③ 消防士たちの命懸けの消火活動（ ）。

④ 悲惨な事故現場を見て、その場に（ ）。

⑤ 一度うまくいってほめられたからといって、（ ）のはよくない。

はばかり 立ちすくむ うぬぼれる
たたえる 問い詰める

(7) 次の語句の対義語を漢字二字で書きなさい。

① 正当 ⇕

② 陽気 ⇕

〈漢字を確認しよう〉

1 線の読み仮名を書きなさい。

① 己の責任を果たす。

② 商いの心得を学ぶ。

③ 言葉を交わす。

④ 自分の言動を省みる。

⑤ 兄の機嫌を損ねる。

⑥ 体に変調を来す。

⑦ 寡黙な人。

⑧ 天下の豪傑。

⑨ 詐欺の被害が増える。

⑩ 多額の報酬を得る。

⑪ 僧侶になる。

⑫ 寛容の精神。

2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

① セキヒに歌詞を刻む。

② 首尾イッカンした方針。

③ オクビヨウな犬。

④ 名演技にトウスイする。

⑤ タンテイ小説を読む。

⑥ ベンギを図る。

()

の信実^④は、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！ 私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、すりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。ああ、このうえ、私に望みたもうな。放っておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしがない。笑ってくれ。王は私に、ちよつと遅れて来い、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣を憎んだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになつてゐる。私は遅れていくだろう。王は、独り^⑥合点^{がてん}して私を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。そうなつたら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も不名誉の人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがりか？ ああ、もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはしないだろう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法^{ていぽう}ではなかったか。ああ、何もかもばかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。やんぬるかな。——四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

（太宰治『走れメロス』）

(1) AとEに入る言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度使わないこと。)

ア 心臓
イ 根性
ウ 身体
エ 血液
オ 精神

- ☐ A $(\quad)$ $(\quad)$
- ☐ B $(\quad)$ $(\quad)$
- ☐ C $(\quad)$ $(\quad)$
- ☐ D $(\quad)$ $(\quad)$
- ☐ E $(\quad)$ $(\quad)$

□(2) 線①「芋虫ほどにも前進かなわぬ」は、メロスのどんな様子を表していますか。

□(6) 線④「君を欺く」とありますが、ここでは具体的にどうするというのですか。文中から**五字**で書き抜きなさい。

線⑤「私だからできたのだよ」とありますが、「私」がどうだから、で

ア 優れているから。
イ 力強いから。

ウ 友情に厚いから。

エ お人よしだから。

()

線⑥「私は、死ぬよりつらい」とありますが、セリヌンティウスを裏

切って生きることが死ぬよりつらいと思ったメロスは迷った末、生きるための言い訳としてどんな論理をもち出しましたか。文中の言葉を使って二十五字以内で書きなさい。

[illegible]

□(9) 線⑦「地上で最も不名誉の人種」とは、この場合はどんな人のことですか。文中から四字で書き抜きなさい。

練習問題

2

教科書

p. 202 l. 19 ~ p. 204 l. 14

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「疲れ切ったメロスは、何もかもばかしくなり、ついには手足を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつと頭をもたげ、息をのんで耳を澄ました。すぐ足元で、水が流れているらしい。よろよろ起き上がって、見ると、岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささやきながら清水が湧き出ているのである。その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかがめた。水を両手ですくって、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、僅かながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名誉を守る希望である。斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日没までには、まだ間がある。私を待っている人があるのだ。少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。私は信じられている。私の命などは問題ではない。死んでおわびなどと、気のいいことは言っておられぬ。私は信頼に報いなければならぬ。今はただその一事だ。走れ！メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。ありがたい！私は正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。ずんずん沈む。待ってくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてください。

道行く人を押しのけ、はね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。野原

□(2) — 線②「静かに期待してくれている人」は、どんなことを期待しているのですか。二十字以内で書きなさい。

□(3) — 線③「その一事」とは、どんなことを指していますか。文中の言葉を使って十五字以内で書きなさい。

(4) — 線④「悪い夢」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□Ⅰ「悪い夢」と同じような意味を表している表現を文中から七字で書き抜きなさい。

□Ⅱ どんなことがきっかけとなって、メロスは「悪い夢」から覚めたのですか。十字以内で書きなさい。

(5) メロスは、本来の自分のことや再び走り出した自分のことを何と呼んできますか。文中から三つ探し、それぞれ四字で書き抜きなさい。

で酒宴の、その宴席の真ただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴飛ばし、小川を飛び越え、少しずつ沈んでゆく太陽の、十倍も速く走った。一団の旅人とさっとすれ違った瞬間、不吉な会話を小耳に挟んだ。「今頃は、あの男も、はりつけにかかっているよ。」ああ、その男、その男のため⑤に私は、今こんなに走っているのだ。その男を死なせてはならない。『急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。風体⑥なんかはどうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸体であった。呼吸もできず、二度、三度、口から血が噴き出た。見える。はるか向こうに小さく、シラクスの町の塔楼が見える。塔楼は、夕日を受けてきらきら光っている。』ああ、メロス様。うめくような声が、風とともに聞こえた。『誰だ。メロスは走りながら尋ねた。』

「フィロストラトスでございます。あなたのお友達セリヌンティウス様の弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、だめでございます。無駄でございます。走るのはやめてください。もう、あの方をお助けになることはできません。」

「いや、まだ日は沈まぬ。」

「ちょうど今、あの方が死刑になるところです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早かったなら！」

「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るより他はない。

(太宰治『走れメロス』)

□(1) 線①「何か小さくささやきながら清水が湧き出ている」の部分に使われている表現技法を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 直喩 イ 隠喩
ウ 擬人法 エ 対句法

()

□(6) 線⑤「今こんなに走っているのだ」とありますが、メロスが必死に走る様子を表したひと続きの二文をここより前の文中から探し、その初めの五字を書き抜きなさい。

□(7) 線⑥「遅れてはならぬ」とありますが、約束の時間はいつまでですか。文中から二字で書き抜きなさい。

□(8) 線⑦「」の中の部分では、再び走り出したメロスの様子や状況をどのように表現していますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 一つ一つの文を短くして緊迫感を出している。
イ たとえの表現を多く用いて想像力をかきたてている。
ウ メロスの心情を詳しく説明することで同情を誘っている。
エ 風景を描写した表現によってこの先の展開を暗示している。

()

□(9) 線⑦、⑧「いや、まだ日は沈まぬ」と、同じ言葉が二度繰り返されていますが、このときのメロスの気持ちとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 約束を守れないことはわかっているが、走るしかないと思っている。
イ 約束を守ることにはできないだろうと、あきらめかけている。
ウ 状況は厳しいが、約束を守る可能性はあると信じている。
エ 恨むと言われたことに対して、いきどおりを感じている。

()

練習問題 3

教科書

p. 205 l. 5 ~ p. 207 l. 19

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日はゆらゆら地平線に没し、A最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」と、大声で刑場の群衆に向かって叫んだつもりであったが、喉が潰れてしゃがれた声がかすかに出たばかり、群衆は、一人として彼の到着に気がつかない。既に、はりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは徐々にすり上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆をかき分けかき分け、

「私だ、刑吏！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」と、かすれた声で精いっぱい叫びながら、Bはりつけ台に上り、つり上げられてゆく友の両足にかじりついた。群衆はどよめいた。あつぱれ。許せ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。①「私を殴れ。力いっぱいに頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、②全てを察した様子でうなずき、刑場いっばいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほ笑み、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、C君を疑った。生まれて初めて君を疑った。（ ）、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

③「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、D抱き合い、それからうれし泣

□ (3) 線②「全てを察した様子でうなずき」には、セリヌンティウスのどんな思いが表れていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア メロスよ、君との友情も今日限りだ。

イ メロスよ、君の誠実な気持ちはよくわかった。

ウ メロスよ、君の弱さをたたき直してやろう。

エ メロスよ、よくぞ帰ってきてくれた。

□ (4) () に入る言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 私が君を殴らなければ

イ 私が君を殴ったならば

ウ 君が私を殴ってくれなければ

エ 君が私を殴ったならば

□ (5) 線③「『ありがとう、友よ。』二人同時に言い……声を放って泣いた」とありますが、二人はどんなことがうれしかったのですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア お互いの力が強かったこと

イ お互いの罪を許し合えたこと

ウ お互いに死なずにすんだこと

エ お互いの信頼が保たれたこと

□ (6) 線④「顔を赤らめて」には、王のどんな心情が表れていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

きにおいおい声を放って泣いた。

群衆の中から、^{※1}歎きの声が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまをまじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔を赤らめて、こう言った。

「おまえらの望みはかなったぞ。おまえらは、^⑤わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」³⁰
どつと群衆の間に、歓声が起こった。

「万歳、王様万歳。」

一人の少女が、^{※2}緋のマントをメロスにささげた。メロスは、まごついた。

よき友は、気をきかせて教えてやった。

「メロス、君は、真つ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘さんは、メロスの裸体を皆に見られるのが、たまらなく悔しいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。
(太宰治『走れメロス』)

※1 歎き＝すすり泣き。

※2 緋＝火のような、濃く明るい紅色。

(1) ☐ A ☐ Dに入る言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度使わないこと。)

ア ついに イ ちらと ウ まさに エ ひしと

☐ A () ☐ B () ☐ C () ☐ D ()

(2) — 線①「私を殴れ」とメロスがセリヌンティウスに言ったのは、どういう気持ちからですか。二十字以内で書きなさい。

ア 恥じらい イ 怒り
ウ 喜び エ 落胆
() ()

(7) — 線⑤「わしの心」とは、どんな心ですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア わがままな心 イ 人を信じない心
ウ 欲の深い心 エ いばりたがる心
() ()

(8) 固い信頼のきずなで結ばれているメロスとセリヌンティウスの様子を見た王は、二人からどんなことを学んだと言っていますか。文中の言葉を使って二十字以内で書きなさい。

(9) ささまざまな困難を乗り越えて約束を果たしたメロスのことを表した言葉を、文中から二字で書き抜きなさい。

--	--

(10) この小説から読み取れることを次のようにまとめました。次の ☐ に入る言葉を漢字で書きなさい。

☐ を懸けて友との ☐ を果たそうとするメロスの姿と、メロスとセリヌンティウスの固い ☐

読解の強化ワーク

観点 1

* 「走れメロス」の主な登場人物を次のようにまとめました。空欄に入る人物名を後の□から選び、書きなさい。

- ① □
…邪知暴虐の王。
- ② □
…主人公。牧人。
- ③ □
…石工。主人公の竹馬の友。

メロス デイオニス セリヌンティウス

観点 2

* 「走れメロス」の内容を話の流れに沿って次のようにまとめました。空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

第一場面

・メロスは、妹の結婚式のための品々を買うため、シラクスの町にやって来た。
ところが町全体がやけに寂しい。

・老翁^{ろうや}から「王が人を殺す」と聞いてメロスは、
① □
する。

第二場面

・メロスは、そのまま王城へ入って捕縛され、王の前に引き出される。人の心が信じられぬという王に、「人の心を疑うのは、最も恥すべき
② □
だ。」とメロスは答える。

観点 3

* 「走れメロス」の第三場面、第五場面でのメロスの心情の変化を次のようにまとめました。空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

故郷に対する思いの変化

【妹の結婚式の時】

・「一生このままここにいたい。」
・「メロスほどの男にも、やはり未練の情というものはある。」

【隣村に着いたとき】

・「ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練はない。」

…未練を吹っ切り、死を
① □
する

信実の証明への思いの変化

【家を出たとき】

・「あの王に、人の信実の存するところを見せてやろう。」

…目的遂行への

② □

【力尽きて倒れたとき】

・「身体疲労すれば、精神も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふてくされた根性が、心の隅に巣くった。」

・「私は不信の徒ではない。」「私は友を欺いた。」「セリヌンティウス、私は走ったのだ。」「私だからできたのだよ。」「どうでもいいのだ。」「ああ、もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。」など。

…心の

③ □

【まどろみから覚めたとき】

・はりつけにすると言う王に、メロスは妹に結婚式を挙げさせるため、無二の親友セリヌンティウスを人質にして三日で戻るとする。

第三場面 (二日目～二日目)

・急いで村に戻ったメロスは、妹の結婚式を明日にしてくれと強引に頼み込み、豪雨の中で妹の結婚式を挙げさせる。

第四場面 (三日目)

・翌朝、メロスは王に人の存することを見せようと、走り出す。

・川が氾濫し、渦巻く⑤の中を泳ぎ切り、⑥の攻撃

からも脱出したが、ついに力尽きて倒れてしまう。

第五場面 (三日目)

・気がついて清水を一口飲むと、肉体の疲労回復とともに⑦が生

まれ、再びメロスは走り出す。

・日が没しかける中を、メロスは制止の声も聞かず、ひたすら刑場へと走る。

第六場面 (三日目)

・最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは刑場に突入した。

・再会したメロスとセリヌンティウスの二人は、迷いや⑧の心が

芽生えたことを互いに告白し、頬を殴り合い、許し合った。

・二人の様子を見て感動した王は改心し、⑨にしてほしいと申し出る。群衆の間に歓声が起こった。

濁流 悪徳 仲間 疑い 山賊
約束 信実 希望 激怒

・「肉体の疲労回復とともに、僅かながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名譽を守る希望である。」
…希望の④

【刑場に向かって疾走しているとき】

・「道行く人を押しのけ、はね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。」

・「その男を死なせてはならない。急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。」

・「人の命も問題ではないのだ。……もつと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。」

・「最後の死力を尽くして、メロスは走った。」

…⑤を遂げねばならない

復活 目的 葛藤 覚悟 意気込み

観点 4

*「走れメロス」の主題を次のようにまとめました。空欄に入る言葉を後のから選び、書きなさい。

この小説には、幾多の①と、人間が持つ心の②との

葛藤を乗り越え、信頼や友情など、人間の③の存在を証明して見せたメロスの人間としての④が描かれている。

弱さ 強さ 試練 信実